

## 第14期 第8回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 令和元年12月23日（月）14時00分 ～ 16時40分

2 会 場 鳥取市役所 本庁舎6階 第3会議室

3 出席者 【委員】

本名俊正委員（会長）、南部敏委員（副会長）、谷口英昭委員、音田正顕委員、  
上田光徳委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、牛尾柳一郎委員、森本早由里委員、  
民家幸世委員

【教育委員会（事務局）】

中村隆弘次長、竹田潤主幹兼指導主事、大坪宗臣主任

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の選任
- 4 報 告
  - (1) 第7回校区審議会審議概要について
  - (2) 校区審議に関連する活動報告について
- 5 議 事
  - (1) 本市の中長期的な校区のあり方について
  - (2) 千代川以西エリアの学校のあり方について
  - (3) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

5 議事の概要

### 事務局

ただいまより、第8回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。

なお、本日は、福山委員、山田委員よりご欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

前回の第7回校区審議会では、中長期的な校区のあり方を考えるにあたり、エリア分けとエリア別の学校数についてご審議いただきました。また、千代川以西エリアについても、鳥取市全域の中長期的な校区のあり方の議論を踏まえながら、具体的な校区再編の方法についてご議論いただきました。

本日も、引き続き2つの議題でご審議をいただきたいと思います。

それでは、会長よりごあいさつをいただき、以降の会の進行をお願いします。

### 会長

（会長あいさつ）

それでは、議事録署名委員を選出したいと思います。名簿順により、川口委員、牛尾委員、よろしくをお願いします。

では、報告事項に入ります。事務局より説明をお願いします。

## 事務局

[資料説明]

## 会長

各地で様々な取組が進んでいるということです。江山学園について、〇〇委員の方でいかがでしょうか。

## 委員

校名や校章も決まり、校歌の歌詞も公募で決定しました。その歌詞に市内の作曲家の方に曲を付けていただきました。なんと3曲も作っていただき、準備委員会で1曲に12月19日に決定したところです。制服については、これまでは詰襟とセーラー服だったのですが、上は男女兼用のブレザーにして兄弟姉妹でも使用できるような制服になるよう工夫をしました。この制服については、12月8日の報告会で初めて皆さんに見ていただきました。モデルは、現役の中学生にさせていただいて、初お披露目しました。小学校では、グラウンドの中に仮設校舎の建設が進んでいます。来年の4月からこの仮設校舎で学校が開校することになります。学校の方では、1月から2月にかけて、3校それぞれに最終報告会を開かれるということです。設立準備委員会は、4月になれば解散することになります。ただ、今後のところが決まっていない部分もたくさんありますので、特に教育環境整備部会では、まわりのグラウンドをどうするかとか、部室をどうするかなど細かい部分が残っていますので、3月までに今やるべきことと4月以降にできる学校運営協議会に申し送りとして、こういう課題があるということを整理しようとしているところです。

## 会長

学校と保護者と地域がいい学校をつくろうという意欲がますます高まってきたなという感じを受けまして、とても心強い感じがしています。是非、いい学校をつくっていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

皆さんからご質問等はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、議事に入ります。議事1は「本市の中長期的な校区のあり方について」です。前回は、エリア分けが少し細かすぎるのではないかと、複数校から1校にするというようなことは少しきつすぎるのではないかと、これから先の時代の変遷も加味したような提案がいいのではないかと、幅をもっと持たせた方がいいのではないかとといった色々なご提案をいただきました。今回は、鳥取市一律の減少率が20年間で22.1%ということでしたので、それを全市的に減少率が一定ということで整理していたのですが、実際は各地域の減少率が随分違いますので、そういった部分も考慮してその地域ごとの減少率でも整理してみました。地域生活拠点という部分、これからの市の発展と教育のあり方ということに合わせてご検討いただきたいと思います。特に本日はエリア分けということで、2つの案を出していますので、これについてご検討をよろしくをお願いします。

それでは、事務局より、表を含めて説明をお願いします。

## 事務局

[資料説明]

## 会長

なかなか数字の部分が分かりにくいところもありますが、最初にご議論いただきたいのは、エリア分けの部分です。今回は6つに大きく分けているのですが、これでどうでしょうかという点です。新市は旧郡部ごとの大きなエリアとして考え、旧鳥取市は千代川の西側全部、東側の北と南ということで、6つに分けております。

それでは、〇〇委員さんよりご意見ををお願いします。

## 委員

子どもたちの通学距離のことを考えるとかなりの距離になると思うのですが、ただ児童生徒数のことを考えるとある程度の数が確保されなければならないことを踏まえると、こういった形なのではないかと思えます。

## 会長

新市の中でも、例えば気高郡の場合には3つの町があったわけですが、それを一つにするという考え方もあるのですが、鹿野学園も始まったばかりですし、それぞれの旧行政区もあるわけですので、そこを飛び越えるというのはまだまだ難しいと思っています。将来は、一つになる可能性もあるかもしれませんが、今のところは旧町村を尊重しておいた方が考えやすいのではないかと思いますし、住民の皆さんの理解も得られやすいのではないかと思います。例えば、気高郡の中学校を一つにという議論も何年か前にはありましたが、鹿野学園を含め、今それぞれの学校で一生懸命されていますので、それはそれで活かしていきたいという感じがしています。

## 委員

差し迫ってきて、この数字を見るとどうしようもないという頃になれば、また住民の方も見方が変わるのでしょうが、そうでないと距離も遠いですしなかなか難しいと思います。この6つに分ける他に案を持ち合わせていないというところです。

## 委員

先ほど通学距離の話をされましたが、児童の場合と生徒の場合だと負担がかなり異なると思います。今ある状況の中で考えていくにあたり、ここに示してあるような区分けが住民や保護者の方にも受け入れてもらいやすいのではないかと思います。

## 委員

確認ですが、千代川以東の南北の区分はどのような定義で分かれていますでしょうか。

## 事務局

現在の中学校区で分かれています。北の部分が、北中・西中・中ノ郷中、南の部分が、南中・東中・桜ヶ丘中ということになります。厳密には線路できれいに分かれていますませんが、概ね線路を境にという形です。

## 委員

それをどのように住民に説明しますか。

## 事務局

現在の中学校区の境界で区切っているという形になっています。

## 委員

北も南も3中学校区ずつということでしょうか。

## 事務局

また、児童生徒数もこのような分け方ですと、概ね規模が同じになるということもあります。確かに、明確な根拠があるかと言えば、なかなか難しい部分もあるかもしれません。

## 委員

旧市の東側の説明をどのようにしていくのかということが、少し気になったところです。

## 事務局

きれいに分けようとする、小学校区そのものも分ける必要が出てくるということにもなるかと思えます。今、提案していただいているのは、とりあえず現在の小学校区はもちろんですが中学校区の状態を残すということを前提にされているかと思えます。仮に、千代川以東を一つのエリアとすると、現在の中学校区でいくと全部で6つとなり、少し大雑把になってきます。もう一つ、前回のご審議の中で、反対に詳細すぎると、将来の望ましい学校数が1校というエリアができてしまい、その地域の方からも受け入れにくいのではないかとということがありました。エリアごとの将来の望ましい学校数が2~4校という形であれば、地域の方にも考えていただきやすいのではないかと思います。また、パターン5のエリアごとの減少率を適用したとしても、それほど正確なものではありません。たまたま近年20年の傾向はこうだったとしても、これから宅地造成やマンション建設により急激に増える場合もありますし、居住している年代構成によっては急激に減っていくこともあるかもしれません。そういったこともありますので、矢印の先を1校に決めつけるのではなく複数にして幅を持たせ、また、千代川の東側であれば、概ね線路を境にして、現在の学校区を変えずに考えればこのような形になるのではないかとということで、ご提案されたものかと思えます。

## 委員

南中が大規模化している課題について、12期の校区審議会において校区のあり方をどうするのか検討され、現地増改築するか、又は小学校区の境界は維持しながら美保南小と倉田小の2小学校区を分離し中学校を新設した方がいいということで答申された経緯もありますので、ちょうどその境界線の意味でもこういった形に分けられたのではないかとこのように思っていました。

## 会長

その時は、答申を受けて教育委員会で議論されて結果的に増改築するという方針になりました。そういう経緯もありますので、現在の南中校区の中には日進小校区のように線路をまたぐ部分もありますが、中学校区は維持した方がいいのではないかと考え方もあります。また、前回までに日進小校区を南中の属するエリアとは別にしてはどうかという案も検討しましたが、そこまで細かく具体的にすることもどうかという考えもあり、今回このように千代川の東側について中学校3校区ずつに分けてみたということです。

## 委員

ただ、答申にする時に、幅を持たせるために2~3校にするとは書けませんので、その理屈をどう書いていくのかそのあたりが気になったところです。

## 事務局

もう一つは、マスタープランの考え方にもあるのですが、生活圏域という面で、普段の生活や買い物などをイメージしてみると駅の北側と南側に分かれるという考え方もあるかと思えます。

## 会長

駅の北側と南側の人口の動態というのはいかがでしょうか。

## 事務局

南側は美保小や美保南小のあたりは増えていきますし、北側は浜坂小が増えてきています。児童数の動態は小学校区ごとに異なっており、なかなか一律に北側と南側がそれぞれどういった傾向があるということとは言えない状況にあります。

## 事務局

そのあたりの参考として、参考資料の 13 ページをご覧くださいと思います。過去から近い将来にかけての小中学校の児童生徒数の動態ですが、中学校で見ると、北側が中ノ郷・北・西、南側が南・東・桜ヶ丘ということで、中ノ郷と南は微増または微減で、その他は減少傾向でその減り幅は様々です。

## 会長

マスタープランによると、地域生活拠点の北側と南側に分かれていますでしょうか。

## 事務局

前回の資料にありましたマスタープランの地図で確認してみますと、中心市街地ということで一つの拠点に位置付けられています。中心市街地の拠点の南に、津ノ井や若葉台といった生活拠点があります。その他は、千代川以西の鳥大前、末恒といった生活拠点が存在しています。

## 委員

旧市と新市、千代川を境に分けるといことはわかるのですが、千代川の東側を南北に分ける理由が少し良くわからない部分です。

## 委員

この東側を一つにして考えると何か課題があるのでしょうか。

## 会長

一つにして考えてはいけないということはないかと思います。

## 委員

答申を出した後に説明がしにくくなるということはありませんか。

## 会長

そのあたりは、事務局の方でいかがでしょうか。

## 事務局

特に不都合はないと考えますが、ただ南北を一つで考えると将来の望ましい中学校の数が 5~6 程度ということで少し多くなってくるかと思います。前回は、将来の学校数が 1 や 2 になるようなエリア分けでしたので、それでは少し細かすぎるということもありましたし、また、現時点では学校数が 1 という整理をしておきながら 20 年先にはあまりにも事情が変わってしまう場合もあり得ます。そのような考えを踏まえて、こういったエリア分けに整理されたということだと思います。千代川以西は北側と南側にしてはどうかというと、南側はかなり児童生徒の数も少なくなっておりますので分けずに一つに整理されています。千代川以東は、古くからの市街地の駅の北側と、南側ということでざっとしたイメージを踏まえつつ小学校区を変えることなく考えて概ねこういったエリア分けになったということだと思います。いずれにしても、東側を一つにして何か不都合が生じるということはありません。

## 会長

千代川以東の北側と南側の学校数について単純に足し算をしてみますと、小学校は現在の 19 が、9 から 12 になり、中学校は現在の 6 が、5 から 6 になります。そういった整理の方法もあるだろうと思います。エリアを 6 つに分けるか、5 つに分けるかは議論をしながら詰めさせていただくということでしょうか。

## 委員

先ほどの議論は、旧市の千代川以東の部分を2つに分けるのか1つにするのかということでしたが、それとは別の観点で、旧市と新市は同じ土俵に乗せないという状況は10年、20年経っても同じなのだろうかと思いました。旧気高郡、旧八頭郡、旧岩美郡から近くへの学校の距離がそれぞれ異なると思います。つまり、福部から中ノ郷に、国府から東や桜ヶ丘に通学する距離感は、気高から湖東に、河原から南や桜ヶ丘に通学する距離感に比べて随分近いと思います。あくまでも新市だからということで、国府と福部を別に考えた方がいいのか、または国府と福部をなかなか一緒にできないので、千代川以東が2つのエリアに分かれるのであれば、北側に福部を含めて、南側に国府を含めるという形もあるのではないかと思います。そうすると、新しい市として融合するような形になるのではないかと思います。私は千代川以西に住んでいますが、明治小校区の子どもが高草中に通う距離感というものはとても大きいと感じています。それを考えると、福部が中ノ郷に、国府が東か桜ヶ丘というあたりは通学できない距離ではないと思います。

## 委員

旧市の千代川以東の中学校区を3つずつに分けたという整理ですが、これまでの中学校区のつながりや地域に居住される方の関係などを考えると、整合性があるのではないかと思います。先ほど〇〇委員がおっしゃられた点で、福部と国府は生活圏がどうなのでしょう。つながりがあるのでしょうか。個人的には、福部と浜坂の方がつながりはあるのではないかと思いますし、宮ノ下は岩倉の方がつながりがあるのではないのでしょうか。気高郡は、データを見るとどんどん子どもの数が減少していきます。以前、中学校の統合の話が出たときは大きな住民の反対がありましたが、その時と比べると相当に減ってくるようになります。そう考えると、気高郡を一つのエリアにするというのは妥当ではないかと思えます。深く分析はしておりませんが、直感的な感想です。

## 委員

20年後を見通して、校区審議会としてどういった方向性を出していくのかということですが、千代川以西エリアを3つに分けるということは妥当であると思えますし、千代川を境に分けるということも明確にしていますのでその点はいいのではないのでしょうか。先ほどから議論が出ていましたが、千代川以東を3つに分けるのかどうかということですが、1つにしてしまうと他のエリアとの均衡がとれなくなってきました。幅が広すぎるがために、方向性がどうなっても妥当性があるという話に落ち着きますが、校区審議会としてある程度のメッセージを出すのであれば千代川以東は1つではなく、2つか3つで出すのがいいのではないかと思います。私の案としては、もし3つで残すのであれば、東中校区が福部と国府エリアと一緒にするのはいいかかと思えます。特に生活圏で考えると国府と東中はつながりが強いと思います。私は2つ残すのがいいと思えますが、福部と北中と中ノ郷と西中、国府と東中と南中と桜ヶ丘がメッセージとしては妥当なのではないかと思いました。今のままですと、福部と国府の選択肢があまりにも少なすぎるので、将来的に旧町を越えて統合を考えるということになると福部と国府で一緒になるという選択肢しかなくなるので、それもどうなのかと思いました。千代川以東については、きちんと分けない形で2つのエリアに分けるというのが妥当ではないかと思っています。

## 会長

それは、福部・中ノ郷・北・西というグループと、国府・東・南・桜ヶ丘というグループに分けるということでしょうか。

## 委員

ただ、東中はいずれのグループとしても考えられますし、日進小校区のように線路をまたいでいる校区ですので、そのあたりをどちらにも動かすことができるような形で整理してはどうかと思いました。

## 会長

現在あるいは将来の生活圏を考えると、福部と国府は峠を越えてということはあまりないので、旧市とくっつけて考えてはどうかということでしょうか。

## 委員

そのように考えてはどうかと思っています。

## 会長

基本的には北側と南側の分け方はこのような形で中学校3校ずつとし、そこに福部と国府をそれぞれ加えていくということでしょうか。合計5つのエリアに分けた方がいいということになりますか。

## 委員

公民館区も北ブロックということで、北・中ノ郷・福部で研修会を開くことがありますので、そういったグループになるのではないかと思います。国府は、東中や南中の方に近いのではないかと思います。

## 会長

そういったエリアの中で適正に学校を配置していくという考え方ですね。わかりました。それでは、〇〇委員さん、お願いします。

## 委員

何を基準にエリアを分けたいのかと考えたときに、子どもの数だけで考えるのか、歴史的な部分や生活圏などを踏まえて地域性を考えるのかという2つの考え方があると思います。ただ、これまで合併してきた中でも、旧市、旧郡のそれぞれの文化があると思います。確かに時代が変わっていくと生活圏も変わることもあると思いますが、今の段階から一緒にくっつけて考えていくということが本当にいいのだろうかという気がしています。エリアを分ける際の理由付けからすると、確かに福部と中ノ郷のあたりは線引きがないのかもしれませんが、実際はそれぞれの学校・地域ごとで子どもたちと関わりながら育てているということを考えると一番重みがあるのだらうと思います。宮ノ下は東中に近い部分もあると思いますが、果たして国府町の一番遠い場所も生活圏は同じなのかはわかりませんし、福部と国府のつながりが本当にないかと言えばそれもよくわかりませんので、エリア分けとしては、提案のあった形でもいいのではないかと思います。

## 副会長

私は前から申しているのですが、地域から学校がなくなると地域が衰退します。福部では、何とか学校を残すために、福部未来学園という形で小中一貫校をつくりました。皆さんは福部町の鳥取砂丘のあたりから駅前くらいまでをイメージされておられるかもしれませんが、実は福部町といっても広いです。南北にも長く、旧鳥取市内に出ようと思えば20~30kmの距離がある所もあり、そこから通学することもあるわけです。したがって簡単に福部町と旧市の学校を一緒にすればいいということにはなりません。福部町から学校がなくなるとは、福部町がますます衰退していくことにつながります。私は市町村合併については賛成していた方なのですが、今見る福部町の姿というのは本当にさびれてしまっていて、若い方は旧市内の方に出て行き、高齢者が多くなっています。町全体も合併前と比べると、高齢化して勢いが弱くなってきています。そこで、せめて学校を残そうということで、福部未来学園をつくり、現在は学校を中心にして様々な活動がなされています。それを、旧市内の中ノ郷中や東中と一緒にしなさいということは、福部町としては賛成できないということです。それから、国府町との関係ですが、国府町との交流というのはあまりありません。どちらかと言えば、岩美町との方が結びつきがあります。したがって、生活圏ということで考えると関係性は薄いと思います。今の提案では、新市部分部分を3つにわけてありますが、いい具合に分けてあると思います。例えば気高郡ですが、旧町ごとに義務教育学校が1校ずつ残るということになり、八頭郡は千代南中と河原中がありますが義務教育学校が1校ずつ残るということになり、こちらもいいと思います。岩美郡ですが、福部も国府も義

義務教育学校が1校ずつ残り、国府にとってもいい形だと思います。旧市についても、この3つの分け方でいいと思います。いずれにしても、先の減少の幅は予測できませんので、減少幅が大きくなって小規模化が進んだ場合は、その時は別途検討するという事でいけばいいのではないのでしょうか。したがって、提案いただいたパターンのような分け方でいいのではないかと思います。

## 会長

皆さんのご意見をひとつお伺いしました。一つは、提案させていただいたパターンでいいのではないかというご意見がありましたし、もう一つは千代川以東の北側を福部と一緒にして考え、南側は国府と一緒にして考えてはどうかというご意見がそれぞれありました。福部と国府は生活圏としてはあまり結びつきがないということでしたので、その部分は引っかかりがあります。今の提案では、便宜的な部分もあり、旧郡部で分けています。もし、それでよければ、このままということになると思います。岩美郡を分けるとすると、それぞれの町で単独にするか、千代川以東の旧市内にそれぞれくっつけるかという案も考えられるかもしれません。ただ、国府にしても雨滝の方まで考えると、なかなか旧市内までは遠い距離になります。子どもの通学のことや、数のことを考えるとどうするかということになります。

## 副会長

国府町にしても宮ノ下の一部を東中のエリアに入れるとなれば、国府町の方からかなり反対が起こると思います。

## 会長

そうなれば反対が起こると思います。また、そういった方法はありませんかという事です。国府町全体を、千代川以東の南側のエリアに加えるという考え方はあるのではないかとことです。そうした時に、学校の位置を考えてみますと、少し難しい部分があります。国府町全体が国府中を越えて東中に通学することがあり得るのかといったところはあります。ただ、学校の位置まではこの場で考えるわけではありませんので、大きく20年後のことを考えると今の6つのパターンか、少し変えるのかといったところになります。今のところ、福部と国府は旧岩美郡ということで一括りにしているのですが、実際にはあまり交流がないという難しさがあります。宮ノ下小校区だけを見れば、旧鳥取市も近く、一見どこが境目なのか分からなくなってきている中で、どのように提案していくか難しい部分です。

## 委員

国府と福部のエリアで義務教育学校を2校残すというよりも、千代川以東の北側と南側にそれぞれ組み込むことで、そこに融合していったというふうに見えるのではないかと思います。また、そのエリアに組み込まれたからと言って、学校がなくなるわけではありません。とにかく最初から新市と旧市を別々に考えることを前提とすると無理があるのではないかと思います。先ほど話にありましたが、佐治村がどうなのか、旧気高郡の学校数も2から3という設定で、3残ればいいですが2になる可能性もある、生活圏で青谷が気高に向かうのか鹿野が気高に向かうのか、いずれにしても学校がなくなることには大きな反対があると思いますが、ただ方向性としては気高郡が2から3という形になっているのであれば、福部・国府についても生活圏が異なるのであればそのグループとするのではなく、千代川以東の北側と南側に組み込んで学校数はそのエリアの学校数に含むという形の方が自然ではないかと思います。

## 会長

千代川以東を北と南の二つに分けて、そのエリアの学校数の中に義務教育学校の数として残すということでしょうか。

## 委員

このエリアは既に、学校数がいくつからいくつということで、何通りか可能性として残っていますの

で、そこはいいのではないかと思います。

#### 委員

私も同感です。色々な可能性を余地として残しておくのであれば、そのような分け方でもいいと思います。気高郡については、例えば学校数が2から3となると、2であれば学校がどこかの町からなくなるわけですが、ただ3という余地も残していればいいのではないかと思います。今後の児童生徒数の動向ははっきりとはわかりませんし、どの時点で判断できるかということは今の時点では言うことはできません。ただ、将来の20年後というときにそういった可能性もあるということを、きっちりと審議して対応できるようにしていくという整理が必要だと思います。気高郡に学校数を2とすれば、どこを減らすのか、鹿野学園はせっかく学校を残したのにとかといった意見が出ることは当然予想されます。そういった意見も大事にしながら、3という余地も残しておくことも必要ではないかと思います。

#### 副会長

また、通学距離という課題があります。小学1年生が国府町の奥から、例えば旧市内の岩倉小にどうやって通学できるのでしょうか。

#### 委員

場合によっては、スクールバスを考えていくことも出てくるかもしれません。

#### 委員

もしそうなったとしても必ずスクールバスが出るとは限りません。検討するエリアを旧鳥取市に組み込んでも、国府町内から学校がなくなるということではありません。あくまでも大きなエリア内で、どこに学校を配置すべきか地域と検討してもらおうということだと思います。青谷町では、小学校5校を1校に統合しましたが、それだけでも青谷の奥から通学する子どもにとっては相当に距離が長くなりました。さらに、仮に気高郡に義務教育学校が1つということになると、さらに距離は長くなります。住民の方と話す機会がありましたが、スクールバスの観点からすると、青谷の奥から青谷の中心部に出ると気高に出るのとでは、乗っている時間が5~10分増える程度でそんなに変わらないのではないかと思います。しかし、青谷町内から学校がなくなるのは非常に困るという意見はあります。

#### 副会長

鳥取県内を見ても、学校がなくなった地域は寂れてしまっています。結局、誰も居住しなくなってきました。

#### 委員

ただ、ここは校区審議会なので、あくまでも学校における子どもの適正な数がある程度確保しながら学校を決めていこうという場であると思います。もちろん、おっしゃられるように、地域振興は地域振興でしっかり考えていかなくてはなりませんし、その中で人口が減らなければ学校は残りますが、どうしても減少していったところに関しては学校として維持できなければどうしても考えざるを得ない部分もあると思います。皆さんの地域で学校を残したい気持ちは良くわかるのですが、仮に残らなくなった場合には、通学距離の課題について考えたり、通学しなくても分校として残すというような方策を考えたりということが必要だと思います。

#### 副会長

私が申し上げているのは、地域振興のためには学校がないと困るということです。

#### 委員

ここは、校区審議会ですので、地域振興のために校区をどうするのかという考え方ではなくて、学校

教育のために子どもの数がある程度確保していこうということが大前提であると思います。私の考えとしては、今考えている 20 年後の校区のあり方というものも、人口が近年の傾向を見ると減っていくことが予想されるので、学校の数は今の数より減るか現状維持になるというようなメッセージを校区審議会として出すことが目的ではないかと思っています。地域振興のために学校を残さないといけないということが大前提になってくると校区審議会は必要ないと思います。鳥取市が今の学校数のままでいいという考えであればそれでいいと思いますが、ただ人口がどうしても減少してくるので学校教育が成り立たないということであれば統合等も検討することも致し方ないという前提で議論していると思うので、そのあたりを分けていただいた方がいいのではないかと思います。どの皆さんも地域に学校を残したいという気持ちはわかります。今後、今のまま人口減少が進めばなくなってしまう可能性があるけれども、残したいのであれば残すためにどのようにやっていこうかと考えるのも各校区での議論の中であってもものいいと思います。ただ、あくまでも将来的な人口を踏まえると、学校数を減らさざるを得ないということ、ある程度方向性として出していくのが、校区審議会だと思います。

## 会長

本日の審議をまとめますと、一つは提案どおりのパターンとするということ、もう一つは千代川以東の部分で北と南に分けて、福部と国府をそれぞれ組み込むということがあったと思います。そのエリアの中で学校の配置を考えていただくような形にするということで、例えば福部は義務教育学校としても残すこともできるような提案をするというようなまとめも含めて、2つの案をもう一度審議していただくということでもよろしいですか。委員の皆さんの中でも、この2つの整理の仕方についてご意見がそれぞれあってなかなか難しい部分があります。また、千代川以東について概ね線路に沿って北と南に分けているのですが、その理由と言っても、駅近辺では北も南もどっちでも同じだというご意見もありますし難しいのですが、そのあたりをどのように分けるのか、あるいは分けないのか、極端には千代川の東側は一つでいいのではないかというご意見も出てくるかもしれません。副会長が言われることも良くわかりますので、そういった部分については義務教育学校としても残れるような余地を残すというまとめ方もあると思います。〇〇委員がおっしゃったように気高郡も学校数が 2~3 となっているのですが、2 ということを実時点ではそんなに強く想定しているわけではないので 3 も含めておいた方が無難な感じがしています。鹿野学園も開校したばかりですし、青谷も気高も急に検討するというのも現実には難しいと思います。また、現在は気高町の 4 小学校区で気高町の学校のあり方を検討されている段階でもあります。そういう動きに水を差すわけにはいかないと思いますので、3 という余地を残しておくことも当面必要だろうと思います。新市は統廃合が先行しており、通学距離とか住民の感情を考えると、現時点ではなかなか急に 2 まで持って行きにくいのではないかと思います。どうしても児童生徒が減り、もうそんなことも言っていられないという時代がいずれ来るとは思います。そうなるまで少し待つ方がいいのではないかという気もします。気高郡については、義務教育学校を 3 つというのが今のところは妥当ではないかと思っています。児童生徒数が少なくなってやむを得ないということになったときに、そういう可能性を含めて、「ないしは」という形で整理してはどうかと思います。

## 委員

私はそうなった時を想定して、気高郡は 2~3 ということでは提案されたのだと思いました。そう簡単に 2 にはできないはずなのですが、やむを得ない時期が来るかもしれません。例えば、青谷の小学校の場合ですと、5 校が 1 校になったときには大変な反対がありました。自分のところの学校は、児童生徒数が維持できるのになぜ統合しないといけないのかという考えもあったのですが、別の地域の小学校区の児童数が 1 学年 2~3 人とかという、とても小さな集団で学校教育の効果を考えるとなかなか大変だという意見もあり、青谷町全体で考えていかないとはいけないという意見が出て、反対意見も強かったですが統合ということになりました。やはり、最終的には子どもの教育効果を優先したと思います。

## 会長

今、まさに気高町では住民の皆さんがそういう状況を認識し始めたところです。その中の議論では、いずれは小学校を 1 校にとということも出ているようです。もちろん反対だという意見もあるのですが、

浜村を除いてどこも複式学級が発生しているという状況があります。複式学級も、ある意味では丁寧な指導が受けられるのではないかとこの部分もあるのですが、コミュニケーションの力を育むにはある程度の規模がどうしても必要だと思います。そういうことを考えますと、当面は残しても、いずれは義務教育学校を解消してでも中学校は中学校でまとまるという時代もくるかもしれません。それは皆さんも想定されているわけですが、今から何年後かまでは当面その地域に学校は残そうという意見もあると思います。湖南学園がモデルとした宮崎県の小中一貫校も既になく、学校が存続している限りは皆さんが熱心に取り組んでおられますので、そここのところは大事にしていきたいと思っています。江山学園も今、一生懸命学校づくりをされているところであり、住民と共に新しい学校をつくるということが、これからの新しい学校のあり方だと思います。そこを大事にすべきで、ただ単純に規模だけ大きくするだけではいけないのではないかと考えています。

## 委員

会長のおっしゃられることも理解できるのですが、20年後のことを考えて答申を出すわけです。江山学園にしても、5年後、10年後に義務教育学校を解消しようと考えている人はいないのですが、20年後に予想以上に子どもがもっと減った場合、江山学園ですら維持できないくらいに起こった場合、分校になるかもしれませんし、近隣の中学校と統合して新たな中学校ができるかもしれません。そういうことを考えると、今ある義務教育学校を20年後も維持するのだというような優遇しているような答申はちょっとどうなのだろうかと思っています。

## 会長

そうしますと、今のご提案ですと、気高郡に置き換えて考えますと、義務教育学校が2~3ということなのですが、小学校1、中学校1になる可能性もあるというような書き方がいいのかもしれませんが。あるいは、義務教育学校が1つになるかもしれません。

## 委員

付け加えて申し上げたかったのですが、八頭郡のエリアは、義務教育学校が1~2ということになると、旧佐治村からは学校がなくなることになり、そうすると、佐治から用瀬まで通学することになると思うのですが、この通学距離のことを考えると、国府や福部のことも十分に通学可能になるのではないかと考えています。明治小校区の安蔵から高草中まで通学する距離というのは、他のどこの地域よりも長い距離を現在通っています。もう一つは、義務教育学校についてですが、小学校に入学してから小規模でお世話になり続けてきた7~9年生のように自分たちもなるのだという思いで7~9年生になり、今度は地元のことを考えながらこの地域で生まれ生きていくのだという思いを強くする子どもを育成するための義務教育学校なのだという雰囲気は何となく今あります。湖南学園もできてから10年が経過し、湖南学園を卒業してどのくらい地元に残るかということが表れてくると思うのですが、小中が統合してよかったのか、中学校はもっと大きなところで切磋琢磨しながら中学校や高校でさらに地域や地方自治を学んで意識させることもカバーできるのかということも含めて鳥取市の将来を担うという視点がないと、今の中学校をなくさないということに固執していると限界が来るのではないかと考えています。1学年20人にも満たない中学校を本当に親が望むのか、子どもが望むのかということです。切磋琢磨する機会であるとか、出会いとかという点はどうか。県西部の町や、若桜町もそうですが、個人種目のある団体競技しか部活動がないということが起きています。野球、サッカー、バレーボール、バスケットボールはなく、残っているのはテニスや卓球だけという状況になってきています。そういった中で、これから児童生徒数の減少が心配される義務教育学校が、本当に中学生にとっていいのかということは各地域でも議論が続いていると思います。したがって、全部を義務教育学校として片付けるのではなく、小学校が残しながら中学校を統合するという案もあったり、義務教育学校に残ってもいいし隣の中学校に行ってもいいという選択肢があったり、そうしたことがもっと許される時代が来ることも考えます。そうすると、義務教育学校の中学部に残る生徒がぐっと減って、通学できる生徒は大規模な学校に行ってもっと多くの出会いなどの体験を中学校時代にさせたいのだという保護者のニーズに応えられるような時代も来るのではないかと考えています。変形の学制のような、義務教育学校に通学してもいい

いし、あるいは通学できる家庭は大規模の学校に行くなど、それを悪いことのように捉えるのではなく、それぞれの保護者の考えや子どもの可能性をもっと反映できるような校区選択ができるような選択肢もあるのではないかと考えています。

## 会長

よくわかります。例えば、過去の宮ノ下小校区の一部を岩倉小校区に変更されたことがあります、完全に移行するのに約 10 年程度かかっています。そういうことを含めた中長期的な視点に立った答申ということもあり得るだろうと思います。

## 事務局

例えば旧気高郡の例でいくと、義務教育学校 2~3 となっているのは、これまで校区審議会の中で適正規模というものを決定していただいて、エリアごとの 20 年後の児童生徒数の予測を設定し、それに適正規模と照らすと 2 になるでしょうということではないかと思っています。ただ、マスタープランにある地域生活拠点を考慮すると、2~3 になるということ幅が出てくることだと思います。答申と言え、何かきっぱりと 2 なのか 3 なのかはっきりとさせた方がいいような部分もありますが、今回のような 20 年後ということになると、児童生徒数の予測もあくまでも近年 20 年の減少率から単純に導き出したもので正確なものではありませんし誰も確実な数値を導き出せません。したがって、学校数についても 20 年後に必ずこうすべきだということは責任を持って発信することは難しいところがあると思います。また、先ほどご意見のありました、将来的には大規模な学校に通学したければ通学できるというようなことが当たり前になる時代になっていくかもしれません。10 年前には考えてもいなかったような義務教育学校という種類の学校が現在できています。

答申をご検討いただくにあたっては、現在言われている適正規模や地域生活拠点を考慮していただきながら進めていただいておりますが、実際に 20 年後にはそういった考え方そのものも変わっている可能性があります。そのような 20 年後の学校のあり方そのものについてのご議論も大事ではあると思いますが、なかなかそこまで確実な予測ができませんし、責任も持てない部分もあると思います。校区審議会においてこれまで適正規模を考えていただきましたが、その適正規模ということ踏まえて、エリアをどう考えるべきか、地域生活拠点を意識した方がいいのかどうなのかあたりをご議論いただければと考えています。これまでの校区審議会では、個別に課題が生じてきた学校区について、その都度明確な方向性を出していただきましたが、今回は鳥取市全体を見通して 20 年後の将来を見通して校区のあり方をご審議いただいております。それは、今後の鳥取市の個別の校区の課題に取り組むにあたり、考え方の基になる大事なものであると思います。ただ、20 年後ともなれば、正解はわかりません。10 年経過すれば、その段階でまた修正をする必要が出てくるかもしれません。したがって、これから現在の制度や考え方をひとまず前提にさせていただきながら、その上で現在考え得る事柄にも配慮したご審議をしていただければと考えているところです。

## 会長

今後の児童生徒数の動向は、なかなか見えない部分があります。中学校が小規模化していったら、本来の中学校のめざす教育がしにくくなるのではないかと懸念はどうしても残ってきます。義務教育学校が残ったとしても、何年か先に統廃合はあると思うのですが、そこまで含めるのか含めないのかとなると、なかなか難しいのではないかと考えています。例えば気高郡に義務教育学校 3 としながら、将来的には小学校と中学校を 1 ずつという書き方をするのかどうかということですが、20 年後であれば義務教育学校が続いていくのではないかとこの思いもありますし、その部分は実際には読めないところです。確かに、中学校が小さくなるのは確かに生徒の力を伸ばす機会を奪っているのかもしれませんが、その部分は心配なところです。もし、そのようになると、私立の中高一貫校もありますので、そちらの方に生徒が流れるという可能性もあります。都会はほとんどそのような形になってきました。しかし、私たちは鳥取市の子どもたちをどのように育てるのかという中で学校の配置を考えているのですが、もう一つ地域の存続ということを考えますと、私個人としては、この分け方は決して悪くはないと思っています。ただ、もっといい分け方をどうするかということでご提案いただいているところです。

今回提案したパターンと、ご提案いただいた新たなパターンでもう一度議論するということではいかがでしょうか。千代川以東の北側と福部を一緒にして、南側と国府を一緒にするというパターンを作成して議論するというのですが、これはあくまでもエリア分けをそのようにするという事です。そこに、福部や国府に学校が残るような提案もしていくというのですが、これですと難しくなりますか。

#### 委員

今ある義務教育学校も含めて 20 年後も残すという書き方はどうなのだろうかと思います。もしかしますと、福部未来学園も 20 年後にはどうなっているかはわかりません。近隣の学校との統合や、残すにしても分校にすることを望むような雰囲気になっているかもしれません。今ある義務教育学校を確実に残すというように読み取られる答申はどうなのかと思います。

#### 会長

今のご提案で考えますと、例えば、千代川以東の北側に福部を組み込むとなると、将来は義務教育学校 0~1 という書き方にしてはということになります。

#### 委員

そのような形になると思います。

#### 会長

なかなか限定的な数は出せませんので、幅を持たせて考えてはどうかということです。仮に義務教育学校が 0 となると、このエリアの将来の小学校数と中学校数が変わってくるかもしれません。

いずれにしても適正規模ということを前提にしていますので、どうしても根拠が、児童生徒数を考慮せざるを得ません。そうすると、多少小さくても残したい、義務教育学校であれば残したいということもありますが、場合によっては 0 になるという書き方になり、様々なパターンがどうしても残ってしまいますが、そういうイメージになるかと思います。

#### 委員

〇〇委員がおっしゃられたことを振り返りながらお話をさせていただきたいと思います。学校数でいえば、気高郡それから千代川以西や他のエリアに比べて千代川以東は元々学校が集中していて非常に多いです。エリアのわかりやすさで言えば、千代川以東も福部・国府も含めて一つにした方が見やすいのですが、学校数では小学校数が 20 いくつのものが将来は 10 いくつになりますと言ってもわかりにくいので、便宜的に北側と南側に分けるということでご理解いただけないものかなと思ったところです。

#### 会長

つまり、あまりにも大まかすぎると自分のところとは関係ないのではないかという考えを生むことが懸念されるのではないかということだと思います。一方で、地域によっては、旧市内にも小さい小学校があるわけです。場合によっては統廃合をせざるを得ないという時代が来ると思います。千代川以東の北側に小学校が 8 つありますが、近年の減少率を考慮すると全て存続させるというのはどうなのかということになってくると思います。旧市内の保護者や地域の方々も、自分たちの学校だけは絶対に存続するというだけではなくて、やはり考えていただかざるを得ない時代に迫っているということです。何しろ、鳥取市全体の人口自体が減ってきており、若者が減り、子どもが減ってきます。その減少幅が大きいのが旧市の周辺部なのですが、旧市においても当然それが及んでくるということです。そう考えると、ある程度身近なところで、今のままでは厳しいのかなということを考えていただくことも必要だということをお答申の中には盛り込みたいと考えています。人口減少が著しい周辺部からすれば、自分のところだけなぜ統廃合しないといけないのか、市内にも小さい学校があるのではないかという意見も実際にはあります。なるべく学校を残したいという気持ちもありながら、どこかで統廃合しないといけない時代がおそらく 20 年後までには来るわけです。そのために、今の時点での児童生徒の減り方だとやはり今から考えておかないといけませんよというメッセージを出すのが、我々の考えている 20 年後を見通した

答申だと思います。

## 副会長

どこの地域もそうですが、児童生徒を増やすように努力はしていると思います。義務教育学校は色々なやり方ができますので、本当にいいと思います。人口はおそらく今後も減少はしていくのですが、他にない魅力的な学校をめざすということで、地域の皆さんが努力しています。本日提案された案でいくということにしてはどうでしょうか。

## 会長

そうしましたら、今回の案ともう一つ、千代川以東を3つではなく2つに分けて学校数を入れた案を提案しますので、そこでもう一度ご検討いただくということはどうでしょうか。エリアの数でいくと、現状の6つにするか、5つにするかということになります。学校の数については、もう少し配慮しながら考えた案を提案させていただきます。

## 委員

5つというのは、福部町を千代川以東の市街地の北側に組み込んで、国府町を同様に南側に組み込むという形ですね。

## 会長

そのような形になります。ただ、それがいいかどうかということは課題もありますし、次回検討を行うということになります。

## 事務局

確認ですが、今回は、パターン4とパターン5のご提案でしたが、エリアごとの減少率を用いる形のパターン5をベースに検討いただくということによろしいでしょうか。

## 会長

より実態に即した形のエリアごとの減少率を用いるということによろしいです。

それでは、議事2の「千代川以西エリアの学校のあり方について」ですが、本日は時間がないので資料の説明で終わるかもしれません。事務局より資料の説明をお願いします。

## 事務局

[資料説明]

## 会長

本日、もう一つ私の方から資料を配布しておりますが、東京都立の1,400人規模の小中高の一貫校をつくっていくということで、これは既に決定しているようです。ただ、完成するには何年もかかるようです。現在、中等教育学校ということで、いわゆる中高一貫校ができていますので、そこに小学校6学年を付け加えていくという形のようなようです。この学校の特色というのは、国際化ということで語学を徹底的に学ばせるということで、目的がはっきりしています。通常ですと、東京都ですと、小学校は区立か市立なのですが、東京都が小学校をつくるということで珍しい取組です。このような取組が全国的に見ると始まってきていて、今までどおりの小学校と中学校を続けていくというだけでは世界情勢に対応できないだろうということもあると思います。そういう意味では、私たちも国際化ですとか、人口減少下の中で、子どもたちにどういった教育をしてどういう力を付けさせるかといったところが本当は一番大事なところだと思います。それによって学校の形態を充実させる、種類も変えていくということだと思います。そういう意味では、鳥取市でも義務教育学校の取組が始まってきましたが、今のところは、地域に学校を残す、小規模だからこそ魅力的な学校をつくっていくという取組だと思いますが、場合によ

っては大規模な義務教育学校という形も取り組むべき課題ではないかなと思っています。これについては、次回、審議したいと思います。

今回の参考資料の 17 ページにある児童生徒数というのは、全ての児童生徒が通学するという場合です。最大限の数になっています。また、何年間かは自由選択制のようなことも入れないといけないと思っています。現在の学校区に通学したいので土地を購入したという方もいらっしゃると思うので、それを考えるか考えないかですが、もし考えるとすれば 何年間かの経過措置期間を考えていく必要が出てくるのではないかと思います。現在 100～130 人くらいの児童が八千代橋を渡って城北小学校に通学していますが、そのような児童数の傾向が続き、なおかつ城北小学校を選択する機会が多いようであれば、その分参考資料 17 ページの数は減ってくる形になります。ただ、それについても読めない部分がありますので、最大限の数ということでお示ししています。

今回は時間がありませんの、資料の説明ということまでにして、次回審議を行いたいと思います。

その他、皆さんの方から何かよろしいでしょうか。最後に、次回の日程調整をさせていただきます。それでは、今回は、2月18日火曜日の9時30分からということをお願いしたいと思います。

## 事務局

慎重なご審議、大変ありがとうございました。以上で第8回鳥取市校区審議会を閉会します。

令和 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 川 口 有美子

署名委員 牛 尾 柳一郎